

輪之内町小学生交流事業 鹿児島派遣を終えて

小学生鹿児島交流事業派遣団長

「有言実行」を派遣団員の合言葉にして取り組んだ今年度の鹿児島派遣研修。厳しい暑さの3日間でしたが、子どもたちは貴重な経験を積むことができました。

木野隆之町長様をはじめ、関係各位に深いご理解と手厚いご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

研修初日、酷暑のセントレアを出発。鹿児島は岐阜より3度ほど気温が低かったようですが、それでも35度近くありました。子どもたちは暑さの中、平田公園で平田靱負像を、城山近くで薩摩義士碑を見学しました。ガイドさんの説明に耳を傾け、メモを取り、写真を撮る子どもたちの姿から有意義な研修になると確信しました。



平田公園に植えられていた千本松原の松の子孫（海津市寄贈）や薩摩義士碑脇に植えられていた薄墨桜の子孫（本巢市寄贈）からも岐阜県とのつながりを感じました。



研修2日目、快晴。メイン活動である郡山小学校での交流。事前研修で準備したプレゼン画面をもとに、輪之内町の様子、各学校の様子、治水工事の歴史などを伝えました。今の生活の礎を築いた薩摩義士への感謝の気持ちをしっかりと伝えることができました。鹿児島は様々な行事を旧暦で行います。ちょうど七夕の時期にあたり、地元老人クラブのお骨折りで用意された15Mを超える巨大な竹に、願い事を書いた巨大短冊を結びつけるという七夕集会にも参加させていただきました。午後からは維新ふるさと館や仙巖園を見学しました。いち早く西洋化に取り組んだ島津藩の歴史を学ぶことができました。

研修最終日も快晴。前日から少し噴煙を上げていた桜島へフェリーで渡り、火山灰や溶岩をその手で体感しました。昼食は薩摩黒豚の味噌煮込み料理を堪能し、帰路につきました。



子どもたちは3日間の研修を通して、様々な文化の違いを感じ取ることができました。まずは食文化。味噌は麦味噌が中心で味噌汁は白。黒砂糖を使うため煮込み系は料理はやや甘め・・・等々。言葉もイントネーションの違いや暗号のような独特な薩摩言葉があることを知りました。いち早く西洋化を目指した薩摩藩の考え方や西郷隆盛の生き方を学んだことは今後の社会科の学習に生きてくると思っています。子どもたちは誓った通り、「有言実行」の3日間であり、この夏、最高の思い出になったことでしょう。本研修を支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。